

2025 年度 成果報告会を開催しました

2026年2月24日(火)、25日(水)、27日(金)の3日間にわたり、東京大学医科学研究所 国際共同利用・共同研究拠点の2025年度成果報告会をオンライン形式で開催いたしました。本報告会は、拠点が推進する3つのコア研究領域(領域1:先端医療研究開発、領域2:ゲノム・がん・疾患システム、領域3:感染症・免疫)から研究成果を紹介し共有する機会として毎年度、開催しています。

初日となる2月24日は、医科学研究所所長の岩間厚志教授による開会の挨拶で始まり、領域1および領域2で行われている共同研究から7件の発表が行われました。疾患発症機構の解明や治療法開発に関する最先端の研究内容が紹介され、参加者の間で積極的な意見交換が行われました。

2日目の2月25日は、千葉大学真菌医学研究センターとの合同成果報告会として実施されました。同センターの米山光俊教授による開会のご挨拶に続き、国立感染症研究所 治療薬開発研究部室長の氣駕恒太郎先生による特別講演「ファージ感染における分子機構の理解と治療研究への展開」が行われました。講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、多様な研究分野の視点から意見交換が行われました。続く研究発表では、千葉大学、そして医科学研究所の領域3 共同研究領域からそれぞれ4件の発表が行われ、参加者、座長、発表者の間で議論が深まりました。

最終日となる2月27日には領域1、領域2、領域3から2件ずつ、計6件の国際共同研究(アメリカ、韓国、台湾、インドネシア、トルコ、メキシコ)について、各課題の進展や得られた結果が紹介されました。質疑応答には教授陣に加え若手研究者や受入教員の研究室に所属する学生も参加し、「こうした点をさらに追究すると興味深い研究につながるのではないか」といった助言も交わされるなど、今後の研究の発展につながる有意義な機会となりました。

3日間にわたり国内外から延べ150名が参加した本報告会は、医科学研究所副所長の川口寧教授による閉会の挨拶をもって終了しました。本報告会は昨年度に引き続き、研究機関や専門分野の垣根を越えた多様な知見が交わることで、参加した研究者の多くが、自身の研究にも応用可能な新たな視点を得た様子がうかがわれ、意義深い研究交流の場となりました。